

## 編集後記

2020年には、東京オリンピック、パラリンピックが開催されます。すでに、2014年度のスポーツ医・科学に関連する学会大会等では、東京オリンピックに向けて、競技力向上および医・科学サポートについて多くのシンポジウムが実施されました。2015年以後も、オリンピックに関連するイベントやシンポジウムが多く企画されることでしょう。日本を代表するエリートアスリートを輩出するために、競技団体別や都道府県別で身体能力の優れた中・高校生を発掘・育成するとともに、国際大会で活躍できるアスリートを育成するためのプログラム、タレント発掘・育成事業など、ジュニアアスリートへの対応が盛んに実施されています。2020年大会の特徴の一つは、オリンピックの開催が7月24日から8月9日の17日間の予定であり、1964年10月の東京オリンピック時のさわやかな秋風がそよぐ環境と異なり、高温多湿の環境で競技が行われることが想定されます。日本の夏の猛暑に対する主催者・出場選手・観戦者のいずれもが熱中症予防のために種々の対策を講じて準備する必要があります。スポーツ医・科学に携わるものとしては、大会そのものが成功するとともに、日本選手団の活躍、さらに、東海大学学園および卒業生から一人でも多くの選手が出場され、素晴らしい成績が挙げられることを期待しています。

本研究所では、東海大学独自のスポーツサポートシステム（トレーニング部門、科学サポート部門、メディカル部門、メンタルサポート部門、栄養サポート部門）により、総合的立場から各競技団体や選手強化に関する支援活動の更なる充実を図り、その成果がスポーツ現場により多く活かされるよう努力していきたいと考えています。

さて、東海大学スポーツ医科学雑誌は、本年度で第27号の刊行となりました。本号には、前号と同様にスポーツサポートシステムおよび人工的高地トレーニングシステムにおける重点活動から得られた研究成果を含めて、運動生理学、バイオメカニクス、スポーツ方法学、トレーニング方法学、体育教育学、臨床スポーツ医学などの広範囲なスポーツ医科学の領域で、10編の論文が掲載されています。

今後もスポーツ医科学に関する基礎的な研究は勿論、競技力向上、健康維持増進や社会還元に貢献できるような実践的な研究も投稿されることを期待しています。本誌発展のために、皆様方の益々のご協力と積極的なご意見をお寄せ頂きますようお願い致します。

最後に第27号刊行にあたって、ご寄稿を頂きました皆様方に厚くお礼申しあげます。

編集委員長 寺尾 保